

第3回今帰仁村人口ビジョン・総合戦略策定委員会 議事録

日 時	平成28年2月19日(金) 15:00~17:30																																														
場 所	今帰仁村教育委員会研修室																																														
出席者	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>団体名</th> <th>策定委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>沖縄大学 地域研究所 特別研究員 法経学部 非常勤講師</td> <td>島田勝也</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>公立大学法人名桜大学 国際文化研究科 国際学群 観光産業教育研究学系 上級准教授</td> <td>大谷健太郎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>今帰仁村商工会 経営指導員</td> <td>田場誠</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>今帰仁村観光協会 事務局長</td> <td>又吉演</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>村出身産業界 (現今帰仁郷友会会長)</td> <td>真栄田久</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>今帰仁村老人会</td> <td>玉城清</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>今帰仁村区長会</td> <td>田港朝茂</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>今帰仁村議会 議員</td> <td>與那勝治</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>今帰仁村役場 副村長</td> <td>大城清紀</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>今帰仁村教育委員会 教育長</td> <td>新城敦</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>今帰仁村役場 幼保連携推進室長</td> <td>宮里晃</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>今帰仁村役場 福祉保健課長</td> <td>仲村美奈子</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>今帰仁村役場 経済課長</td> <td>島袋輝也</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>琉球銀行今帰仁出張所 所長 (オブザーバー)</td> <td>西泊正喜</td> </tr> </tbody> </table>			団体名	策定委員	1	沖縄大学 地域研究所 特別研究員 法経学部 非常勤講師	島田勝也	2	公立大学法人名桜大学 国際文化研究科 国際学群 観光産業教育研究学系 上級准教授	大谷健太郎	3	今帰仁村商工会 経営指導員	田場誠	4	今帰仁村観光協会 事務局長	又吉演	5	村出身産業界 (現今帰仁郷友会会長)	真栄田久	6	今帰仁村老人会	玉城清	7	今帰仁村区長会	田港朝茂	8	今帰仁村議会 議員	與那勝治	9	今帰仁村役場 副村長	大城清紀	10	今帰仁村教育委員会 教育長	新城敦	11	今帰仁村役場 幼保連携推進室長	宮里晃	12	今帰仁村役場 福祉保健課長	仲村美奈子	13	今帰仁村役場 経済課長	島袋輝也	14	琉球銀行今帰仁出張所 所長 (オブザーバー)	西泊正喜
	団体名	策定委員																																													
1	沖縄大学 地域研究所 特別研究員 法経学部 非常勤講師	島田勝也																																													
2	公立大学法人名桜大学 国際文化研究科 国際学群 観光産業教育研究学系 上級准教授	大谷健太郎																																													
3	今帰仁村商工会 経営指導員	田場誠																																													
4	今帰仁村観光協会 事務局長	又吉演																																													
5	村出身産業界 (現今帰仁郷友会会長)	真栄田久																																													
6	今帰仁村老人会	玉城清																																													
7	今帰仁村区長会	田港朝茂																																													
8	今帰仁村議会 議員	與那勝治																																													
9	今帰仁村役場 副村長	大城清紀																																													
10	今帰仁村教育委員会 教育長	新城敦																																													
11	今帰仁村役場 幼保連携推進室長	宮里晃																																													
12	今帰仁村役場 福祉保健課長	仲村美奈子																																													
13	今帰仁村役場 経済課長	島袋輝也																																													
14	琉球銀行今帰仁出張所 所長 (オブザーバー)	西泊正喜																																													

- 1.開会
- 2.委員長挨拶
- 3.人口ビジョン・総合戦略の策定過程について【参考資料】  
事務局より資料説明
- 4.今帰仁村人口ビジョン（案）について【資料2】  
事務局より資料説明
- 5.今帰仁村総合戦略（案）について【資料3】  
事務局より説明
- 6.答申書（案）について【資料4】  
事務局より説明
- 7.議事

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2に関して、何か質問等あれば伺いたい。</li> <li>・ 村の人口をどこに置くのか。施策としてどうなのか。人口1万人を達成するというのは難しい。2060年までの1万人というのも難しい。9,500人が妥当な計算としている。国の推計によると無理だから無理とするのか。そもそも総合計画の中で1万人を達成しようという考えがあり、将来的なものとすれば不可能なものではないと思う。委員会の中で意見を出していただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しいシミュレーションではあるが、人口増を狙うのであれば、出生率を上げて、教育、子育てに対する施策を掲げてそれに合うような政策を実施していけば糸口は十分にあるんじゃないかなと思う。その政策をどういうものにするか、子どもの医療費を無料にするのか、教育費を高校まで無料にすることを進めていけば人口増は期待できると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それは仕事づくりも含めて、できるポテンシャルはあると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツに例えると、優勝を目指してベスト4に入ると思う。ベスト4を目指して優勝はおろかそこまでいかない。目標は高くおいた方がいい。子どもが増えたときの受け皿をどうするか考える必要がある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大城委員、新城委員とも積極的な発言をしていただいた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の受け皿づくりに関して、今後、平成30年には民営化の施設づくり、翌年には村の認定こども園の設立をすることで、子どもの受け皿を大きくしたうえで新設することを進めている。この1、2年本当に本村でこれだけの子ども数が見込めるかということ、実は子どもの数は減っていく。少し安心なのは、一旦減っても今後の施策によっては増えていくだろうという推計がある。施策をしない限りは、子どもは増えていかないと思う。どういった施策かということ、支給型ではなく子育てしやすい環境づくり、教育を支援という考え方で実施していく。たとえば義務教育化。医療費の話もある。また塾や色んな支援の方法がある。そういう部分をカバーできるのであれば力を入れていかないといけないのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色んな施策を考えて、やろうじゃないかという気持ちでいるということですね</li> <li>・ では、民間の立場からはどうでしょうか。仕事をつくっていかないといけないと思うが意見をお願いします。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口が増えるということは、子どもを産む年代層の人が雇用の場をどうやって確保するか。雇用がなければ、企業のある隣の市町村へどんどん移っていくという状況になるので、そういう意味では、企業あるいは産業を興して若者を定着させて子どもを増やすというのが純粋な人口増ではないかと考える。企業の設立が必要じゃないかと思う。子どもの医療費等、若者が定着できる施策が必要。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や産業を興す力がこの村にあるということで、それを支えるような施策をやっていくべきだということですね。</li> <li>産業開発分野からの意見をお願いします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口1万人を目指すということで、1万人を達成した時に社会的にどのようなメリット・デメリットがあるのか、人口の変化によって起こることについても考える必要があるのではないかと。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>それは肯定的な立ち位置からの意見ですね。現在の人口が9,000人で2万人を目指すのなら大きなひずみが生じるかもしれないが、どうだろう。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料に示している人口の社会増についての書き方だと何をどうすればいいのか見えづらい。5年間で110人増だと年間22人増ということで、この22人をUIターンで考えた場合、世帯で表すと何世帯増やせばいいのか、何人家族の何世帯を増やせばいいのかを数値で表すと、今いる世帯が子どもを何人産めばどういう数になるというのがわかりづらい。1万人を目指すということについては賛成。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値については、総合戦略と人口ビジョンの中で示せるか。示しているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かい数値については、第1回策定委員会の人口ビジョンの中で説明しており、最終的な資料にも掲載します。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口ビジョンで目標が1万人というのは国の推計によるとどのシミュレーションでも人口は減っていくが、急激に減らなかった理由が何かあると思う。これは今婦仁の良さだと私は思う。特に地域での子育てのやりやすさ、人付き合いのやりやすさ、目に見えない統計数字では表れないものが原因で、急激な人口減少をしないで現状9,500人をずっと維持しているのだと思う。これを活かす活動をやっていけば、先ほどからあるように働く場をつくれれば1万人というのは十分達成可能だと思っている。</li> <li>特に今婦仁村は、教育立村ということで昔から人づくり、地域づくりをやってきて、人づくりが生活力のレベル向上につながる、教育が就職につながるという話があるので、育ての村を目標に施策をやっていけば1万人は達成可能だと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1万人を目指そうということですね。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標は高く持っていていいと思う。隣の本部町は、海洋博もあって大きなスーパーがあるけれども消滅しそうな町になっているのはなぜなのかなと常に疑問に思っている。その答えと田港委員が発言したように本村の今見えていないいいところが隠れているのだろうと思う。今回の3回の議論だけでは十分ではないと思うが、今後も継続して考えていく必要がある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>住みやすい環境づくりを書いていかないといけないですね。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>1万人をぜひ目標に掲げていきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎内プロジェクトチームでは、1万人達成について本当にできるのかなという意見が出たというが、それはどちらの意味ですか。やれるかな</li> </ul>

	<p>という意味なのか、かえって人口という目標を置かない方が幸せなのではないかという意見なのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトチームでは、本村の人口が7千人等に減少していくという推計が出ている中で1万人は本当に達成できるのか、それよりは、現状維持で住みやすいまちづくりをみんなで考えた方がいいのではないかという話をした。</li> <li>田港委員が話したように、人口が9,500人で推移しているのは本村に何かいいところがあるのだと思う。1万人は、ずっと村が掲げている目標ではあるが、それにこだわらず現状維持を考えて住みよい環境づくりを考えていこうという話になった。</li> <li>住みやすい環境づくりをした結果人口が増えれば嬉しいことである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>いかにして若者が定着できるかが課題。地域で生活できるためには仕事がないといけない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦略に入れていきましょう。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>1万人は、純増で考えれば難しいと思うが、村の活性化のためには人口増というのは必要不可欠だと感じる。なので、繰り返しになるが、名護市や本部町から通う方もいるので、職と子育ての環境づくりをする戦略が必要だと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>では、皆さんの意見は人口1万人を掲げるということで異議なしでよいか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員長の話にもあったが、何もやらなければ人口は減っていく。村の合意の中で、現状の維持が望ましいというビジョンがあったので、1万人というのはプラスアルファの目標であって、9,500人くらいが精いっぱい。何もしなければ減る中で何とか現状維持をがんばろうというようなスタンスを示した上で、もう少しがんばればもしかすると長年の目標であった1万人に到達するよという2段階目標というのがわかるような示し方をした方がよい。おそらく他市町村の中には、減少の中でがんばりますという市町村もあり、どうやったって増えないという市町村もある。何とか今婦仁村は維持を達成してプラスアルファ1万人を達成する努力をするというような書き方をするとわかりやすいのかなと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口1万人を目標にしますという戦略になっているかというのを見ていきましょう。足りないところを皆さんに意見を出していただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度実施の国勢調査は人口9,257人だが、今回（平成27年度）実施の国勢調査は9,500人（精査途中）で減少ではなく微増である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口ビジョンについて、2060年時9,457人というのはパターン3のことですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい。パターン3が2060年時目標人口9,457人である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状維持の目標である9,500人ですら、出生率を2.5まで増やして、更に5年間で75人ずつ転入を仮定しても現状維持だということですよ。もう少しわかりやすく、村民が資料を見たときに伝わりやすい表示の仕方を工夫した方がよいと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>見せ方を工夫して事務局で資料を作っていきましょう。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標は高い方がいいと思う。2月初め頃から、経済課では農振地域農用地の総合的見直しの説明会を実施している。その中で、いろんな意見が出ている。若者が増えていけばいいと思うが、結婚の年齢について、結婚が遅くなると子どもを産むことに影響が出てくると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そこは大事なポイントだと思う。戦略の中に入れていきましょう。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>では、次に総合戦略について事務局から説明してください。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合戦略について説明</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局が作成した総合戦略案について、委員の意見を出していただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>この策定委員会は、人口ビジョン・総合戦略の策定までを担うと思うのですが、PDCA サイクルの評価・検証は誰が行うのか。策定委員会が、計画策定後は検証委員会のようなものになっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員の皆様は、平成 31 年度（平成 32 年 3 月 31 日）まで策定委員会の委員として任命されています（第 1 回策定委員会時に委嘱状交付）。今年度策定した計画に基づき、次年度以降計画を実施していく中で、毎年 1 回策定委員会を開催し、その評価、必要があれば見直しをするという役割を委員の皆様にご担っていただきます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど話があったように、本部町の人口が減っている原因は何なのかという視点は非常にいい意見だと思う。それぞれの目標に対するマーケティング、うまくいっているのかとか、今婦仁村だけではなく近隣市町村の動向もきちんと調べていかないと難しい部分があると思うので、こういうのはどこに役割を置いた方がいいのか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>その必要性を報告あるいは答申の中で委員の意見として盛り込める方法を考える。</li> <li>特に観光分野についてはどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標 2 の数値目標の中で案内ガイドの登録数基準値 37 人から目標値 100 人とあるが、実施の施策の中でガイドが出てくるのは、「林業を活用した森林レクリエーションの推進」の中で「③案内ガイド・インストラクターの養成」というのが出てくるのだが、ここにあるガイドは今婦仁城跡のガイドとは違うのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>含めて考えている。書き方を考えます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標 1 から 4 があるが、この総合戦略に掲げたものに対して 2 分の 1 の補助がつくという考え方でいいか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい。基本目標を掲げて関連する具体的事業を後ろに掲載しているが、ここに書いたからすべて補助金がもらえるというわけではなくて、手あげ方式で国に申請をして審査に通った段階で 2 分の 1 の補助がもらえるということです。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>この基本目標に掲げていなくて、これも掲載した方がいいということについてはどうすればいいか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>この総合戦略に掲載しているものが補助の対象になるので、広く言葉を入れていた方がいいです。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合戦略の 10 ページの基本目標 3 に数値目標として出生率目標値（平成 31 年）1.97 とありますが、これは、人口ビジョンの 19 ページのパターン 3 を目指した場合、出生率を 2.1 から徐々に 2.5 と上げていかないと目標に到達しないのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の出生率が 1.97 なので、まず 5 年間はそれを維持して段階的に上げていこうということ。5 年後の目標値を高く設定した方がいいということであれば検討して取り入れていきます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>表記の仕方について、西暦か元号か統一した方がわかりやすい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、修正して統一します。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合戦略 8 ページ基本目標 1 の数値目標の従業者数について、平成 31 年目標値が 10% 増としているが、これは目標値として高いのではない</li> </ul>

	<p>か。これは、働き口があって従業者が増えると思うが、現状からみると少し多く見積もっているのではないか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結婚する年齢との関連もあると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 ページ基本目標 3 の「幼稚園や低学年の学童保育を充実させる」の幼稚園は一時預かりになるので除いてください。低学年ではなく就学児にしてください。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標 1 から 4 までである中で、13 ページ以降の 5. 今後計画される具体的事業の中には基本目標 4 の記載がないが、必要はないのか。つくった方がいいのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標 4 は、連携についてのもので他の事業に含まれているという意味で記載していません。現段階で特に基本目標 4 だけに特化した事業は出ていません。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館の活用が盛んである。我々高齢者は地域活性化の基本になるかもしれない。高齢者を活かすような施策をどこかに入れてほしい。若者と同じくらいの経済効果を生むであろう高齢者パワーを活かし、公民館活用をできる施策をいれてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シルバー人材センターのように、高齢者は現役世代と同じように活発なので、その力を活用できるような施策はぜひ入れてほしい。</li> <li>・ 公共交通について、村内を巡回できるようなコミュニティバスの検討も必要。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田港委員がおっしゃったことについては、基本目標 2 にいれていきましょう。高齢者世代をどう活用していくかを考えましょう。</li> <li>・ 人口 1 万人というのは、私からの提案でもあった。しかし、今の常識での計算でいくとどうしてもがんばって 9,500 人という数字しか出ない。しかし、村民の意識の中には 1 万人という目標がある。1 万人を達成するためには、総合戦略の 20 ページに記載しているように、大型ホテルの誘致や村の一等地にある役場庁舎の活用の仕方も含めた上乘せの考えが必要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先ほどから発言があるように、村の目に見えない良さを見える化した方がいい。私は村外出身ですが、村と他市町村の違いは何かといった時に、豊年祭があると思う。エイサーは他市町村でも盛んだが青年会を中心に行っている。豊年祭は子どもから高齢者まで一緒に活動できるというのが今婦仁村の地域の結びつきにつながっているのではないかと思います。</li> <li>・ 基本目標 2 の中にある「サテライトオフィス環境の整備推進」については、商工会でも積極的に取り組みたい。ICT を活用して村外の IT 企業等と連携していき、できれば具体的事業を入れていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定住促進や移住者の増加につなげるためには、戦略によって村の状況がよくなった部分、例えば子育てしやすい環境や高齢者にやさしい村になった等というのを外に発信していかないと、結局自分たちの自己満足で終わってしまって本当の移住・定住には結びつかないと思う。自分たちの取り組みを積極的にプロモーションしていくことを文言として記載した方がいい。</li> <li>・ ICT との関連で基本目標 4 に「インターネット高速通信網の整備」と書いてあるが、数値目標には入っていないので、ぜひ数値目標として入れてほしい。現在、古宇利島、今婦仁城跡には光回線が届いていないので困っている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この戦略づくりをするには大変重要なことだと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>では、ゲストの紹介をしていただきたい。</li> </ul>
ゲスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>(予定にはなかったが、別件で来庁していた JTA 客室部の 3 人が雑誌取材を兼ねて会議を傍聴していた。)</li> <li>それぞれ自己紹介。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今婦仁ブランドというのを大切にしたいし育てていった方がいい。今婦仁スイカ以外にも素晴らしい果物がある。県内のみならず県外の方にも割と簡単に手に入れることができる、例えば観光客が今婦仁村に来たら簡単に食べられるとか、そういう形でブランド化していくのがいいではないかと思う。これが産業・企業につながっていく。</li> <li>以前にも提案したが、スポーツコンベンションによる地域活性化というのがうたわれていて、ちょうど今頃の 2 月から 3 月にかけて、いろんなスポーツチームが合宿・キャンプをしに沖縄県に来る。今ちょうどプロ野球キャンプの時期ですが、このキャンプが終わると今度はアマチュアのキャンプが来る。国頭村では、合宿受け入れ環境を整えている。今婦仁村もワルミ大橋や古宇利大橋という素晴らしい資源を持っており、マラソンには素晴らしい練習環境だと元オリンピック選手の高橋尚子さんも以前おっしゃっていた。そういう資源を活用して、例えば陸上関係のキャンプ誘致を図れるような陸上競技場を設置して、種目をいろいろばらせるのではなくて一つのものに集中して、駅伝・長距離走の合宿ができる地域は今婦仁村ですよというふうなうたい方でアピールをすれば、それを扱う企業との連携にもつながるということを感じた。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>また、今婦仁村郷友会ネットワークの活用もありますよね。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在郷友会は、今婦仁村を出て 2 世 3 世の方がほとんど。そういう方々に自分らのルーツの今婦仁村が大変いい村なのだとすることを知らしめるために、今年は今婦仁村と郷友会がどんどん交流を持っていきましょうという事業を盛んにしていきたいと思う。昨年は村の支援も受けて村総合まつりに参加した。若者に今婦仁村を知ってもらおうことが U ターン等につながると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 万人戦略に大変有効なネットワークなので、その活用を考えていく必要があると思う。</li> <li>今婦仁は老人会という名前を変えてみまじょうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人という名前が入りたがらない方もいるので、老人クラブの維持が難しい。スポーツや伝統芸能（三線、舞踊）の分野で活躍している。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人クラブの活性化について、他の地域がどのように活動をして地域貢献をしているか事務局で調べてアイデアを出してください。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の発信力の強化が大事。私は県内在住で今婦仁村へ赴任して 2 年だが、今婦仁村について何も知らなかった。現在、大学生アンバサダー事業を実施しているように今婦仁村を知ってもらおうということが大事だと思う。</li> <li>基本目標 3 の待機児童について質問。平成 26 年度で 20 人程度とあるが、現在待機児童はいるのか。村で待機児童がいるというのは意外であった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 月の年度初めの時点では 0 だが、年度内に産まれた子ども等については待機児童となっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補足説明) 26 年度末 (平成 27 年 3 月 31 日) には、保育所に入れなかった子どもが 20 人いたが、平成 27 年 4 月 1 日には待機児童は 0 となっている。だが、その後産まれた子どもについて、預けられるのであれ</li> </ul>

	<p>ば預けたいという潜在的な子どもを含めて待機児童数となっている。女性が働きやすい環境づくりということであれば待機児童0の村というのを発信していくことも考えられる。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的に平成 29 年度末には待機児童を 0 にするという施策も取り組まれており、計画策定も市町村に義務づけられている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>この計画を実施するには子どもの医療費、子育て無料化等をしないといけないのかなと思うが、村の財源との兼ね合いもある。人口の増減については、離婚と晩婚が関係してくるとというのが常に頭にある。また、昭和 22 年生まれの世代が 75 歳になる頃の問題について高齢化の中で考えを盛り込めたらいいと思う。</li> <li>村を出て遠くから村を見ている方々は、昔のやんばるらしい森林等を残してほしいという声が増えると、農振農用地や若い産業等への影響につながる可能性も考えられる。外からの呼び込みも含めて土地利用のあり方を総合的に考えていく必要がある。</li> <li>少子化の影響で学校の統廃合が進むのであれば、今のうちから休校か廃校か学校跡をどのように活用していくのか施策を持つておく必要があると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用については検討しないといけないことである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標 3 については、投資をするという考え方。将来の子ども達のためにいかに教育環境をつくっていくか。少子化が進む中で教育は重要である。低所得等の理由で子どもを大学まで行かせてあげられないという現状が見られる。村の財源の中でどれだけできるのかということもあるが、ふるさと納税等の活用も視野に入れて、長く子育てを支援・応援する取り組みが必要。別の会議の中で大学への入学金が準備できないことで子どもが進学を諦める現状を、全体で考えていかないといけないという指摘があった。</li> <li>公民館の活用と関連して、基本目標 4 の「時代に合った地域をつくる」という部分について、高齢化率が高くなる時代・地域の中では、高齢者が住みやすい環境づくりが必要。公民館の活用を含めて地域が支える高齢化社会というようなことを入れることはできないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな政策が動き出すまでには時間がかかると思うので、それまでのつなぎとなるような教育支援をふるさと納税の活用を含めて村で検討できたらいいと思う。</li> <li>北山高校というのは村にとって宝物だと思う。そこをどうやって活用するかについても関係すると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業活性化と雇用の安定は非常に大事なことであり、子どもができる安定・安心して働ける環境づくりが必要で、子どもをしっかり預かるというのが重要になってくると思うので、戦略にもいろいろな事業を載せている。</li> <li>昨今子どもの貧困の問題が非常に取りざたされているが、人材育成の中でも貧困であるがために学ぶことを諦めるような環境になってもらいたくない。地域の未来を担う人材の育成についても村から実施していきけるように取り組んでいきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合戦略の 13 ページ「1 未来を担う人材育成事業」はリニューアルして、「4 北山高校魅力化事業」の中で取り組んでいく。首都圏から地域おこし協力隊（講師）を導入して村に住んでもらい公営塾を設置し、地域の魅力化を含めた取り組みを行う。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事について、女性が働きやすい（復帰しやすい）環境づくり、ICT 活用環境の整備を進めていく必要がある。</li> <li>・ 住環境について、村営住宅を建てる計画もあるが空き家の活用に取り組む必要があると思う。現在、村へ移住したいという人もいるがアパート等も含めて住む環境がない。村での生活を体験する住環境がない。UI ターンを進めていく中では住環境を整備する必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業者の人口を増やすような施策を考えていきたい。今帰仁村は農業村で、私の親も農業をして子ども 6 人を育ててくれた。専業農家でそれができた。今後、今帰仁村で若い農業青年を増やす。今、高校を卒業すると仕事がないので村外へ出てしまう。昔の農業のように今はスコップや鍬で畑を耕したりせず、機械化が進んで昔ほど重労働ではない。農業の活性化をしたい。</li> <li>・ スポーツコンベンションについて、運動公園という立派な施設はあるが中途半端。ホッケー場としては使えるが、陸上競技場としては使えない（一周 500m 程度ある）。陸上競技場の整備をすれば、県内外の合宿・キャンプを誘致できる。運動公園計画には野球場の計画もあるが、実現していない。野球、サッカー、ホッケー、陸上等で活用できるように施設整備をすれば、スポーツコンベンションの幅も広がり人口増につながる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT を活用して農作物について数値化をすることで農業生産の裏づけを求めながら、カッコイイ農業者をつくってほしい。</li> <li>・ 6 次産業化について、現在古宇利島に売り場があるが、もっとおしゃれできれいな売り場を公共で建設して販売をすれば、魅力もあって可能性はあると思う。</li> <li>・ 観光分野で古宇利島も今帰仁城跡もそうだが、仮に来たとしてもまだまだ素通りしている状況があるので、お金を落とすしくみをみんなで考えていかなければいけない。</li> <li>・ 大学入学金の支援等について、金融機関がサポートすることもたくさんあると思うので地域を挙げて取り組んでほしい。</li> <li>・ アパートを誘致できないか（投資してくれる企業、マンスリー等）。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業×IT はいい考えだと思う。今帰仁ブランドになる可能性がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先週、大学生アンバサダーの東京農業大学生 5 人が字に来た。村内の農業大学卒業生に呼びかけて歓迎会をしようと、肉用牛の業者に話をしたところ、ふるさと納税の贈り物で牛肉が完売だということだった。</li> <li>・ 今後、大学あるいは企業と交流するための新しいセミナーハウスを村内に数か所つくってほしい（宿泊費等を出して利用してもらおう）。それを建設する間は各公民館を利用して、地域の住民と交流することで地域の活性化を図る。例えば京都大学の学生に来てもらって村の子どもたちに刺激を与えたり、技術系の大学生に来てもらって交流をしたりする。一つのセミナーハウスは、一団体専用ではなく複数の団体が利用できるしくみづくりをする。スポーツ系、文科系、芸能系と分類をして、豊年祭等の地域の伝統芸能も体験できる体系ができれば、雇用が生まれ、観光振興になり、教育効果にもつながる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国もこういうメニューには補助金を出すしくみを準備している。これを実現するためには地域が汗を流さなければいけない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携という言葉が所々に出てくるが、周辺地域との関係ということで、村内に雇用を創り出して村内に住む人と、村外に働きに出ているけ</li> </ul>

	<p>れども村内に住んでいる人（暮らしやすさ）と両面があるが、その行く先に村が求めているものは何か。税収か。税収という話は総合戦略の中ではずれているかもしれないが、結局は住民税や法人税等の歳入がある程度自立していかないと、この先人口が減って国もお金がなくなってここまで高率の補助ができなくなるかもしれない。そうすると、今婦仁村が独自の税収のできる限りやっていくべきという考え方があると思う。基本目標の中に自主財源を含めた税収の増という文言が少しあってもいいかなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値について、これは5か年の計画なので将来50年先の目標を立てるわけにはいかないが、総合計画（現在前期）にも連動して結局は今婦仁村にいる人が住みやすくなったか住みやすくなっていないかという所謂満足度の部分。せつかくなので、その満足度を60年間毎年調査していけば、長期的なKPI・評価指標ができるはず。住民の主観的な評価だが、生活がしやすくなったとか子育て環境が充実したとか所得が増えたとかいろいろあると思うが、結果として住みやすくなったかどうかというのを60年間で評価できる指標というものをつくっていいのではないかと感じた。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口増とは別に幸せ度が一番高い村という考え方もある。</li> <li>・ 全国で3月までこのような議論が展開されている。今日までの議論を事務局で預かって内容を検討し、村長へ報告する。地方創生事業の補助率は2分の1と高くはないが、今婦仁村にとってアンケート調査をしたり庁内会議をしたり、半年間議論を積み重ねてきたことが意味のあったこととすごく大事なことだと思う。その結晶として報告書ができあがってくる。それは今後今婦仁村にとって宝物になると思うし議論を継続していくことが大切。</li> <li>・ これから毎年検証をしていくことになるので、係った人は意識して注目していくよう継続してよろしくお願いします。</li> <li>・ この後午後6時からは報告会を開催するが、少しずつ係る仲間を増やして協力してもらいましょう。</li> <li>・ 3回にわたる会議で進行をさせていただき皆様のご協力に感謝します。ありがとうございました。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 午後6時から報告会を開催。</li> <li>・ 策定委員会の意見を事務局でまとめたうえで村長へ答申する。</li> <li>・ 次年度以降は、年1回委員会を開催し総合戦略の評価・検証をしていく。</li> </ul>